

現場見学会レポート

◆短工期の沈埋トンネル工法を拝見

8月29日(木)に開催された「東京港臨港道路南北線」の工事見学会には会員29名が参加し、工事中の沈埋トンネル内を歩いて見学しました。

本道路は、東京湾の南北軸強化による交通混雑緩和および港湾物流機能の効率化のために新設され、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催期間中は大会関係者の輸送ルートとしての活用も想定されています。従来の沈埋トンネル工法よりも大幅な工期短縮が求められ、沈埋函の製作手法をはじめ、さまざまな創意工夫がなされています。最大長さ134mの沈埋函が7函製作され、そのうち4カ所にクラウンシール式接手を採用。変形吸収と止水機能にすぐれ、耐震性能を向上させる工法で、二次止水ゴムの実物を見学することができました。

見学後、施工誤差の吸収の仕方についての質問

右／工事概要の説明と、現場を案内してくださった監理技術者の段塚隆雄氏。
下／東京臨港道路南北線は自動車道が上下線合わせて4車線と、歩行者・自転車用通路で構成される。写真は沈埋トンネル内の自動車道路部分を見学する様子。



が出るなど、工期短縮と生産性向上、施工精度の確保などに関心が集まった見学会となりました。

DOBOKU Information

一般社団法人まちふね・みらい塾主催 「わくわく・すいすい『水辺探検』-2019」を後援

当会は、一般社団法人まちふね・みらい塾が主催する「わくわく・すいすい『水辺探検』-2019」の活動を例年同様後援した。

9月15日(日)に開催。午前中から児童とその保護者等35名が参加し、日本橋船着場から乗船、日本橋川、隅田川、晴海、お台場方面へ船上から橋や街を眺めて、現代の東京の街が出来上ってきた歴史や、水辺の環境を目や耳や肌で感じてもらうクルージングを行った。午後は会場を京橋「中央区環境情報センター研修室」に移し、船から見えたものや感じたことを布地のエコバッグに絵や言葉にして描いてもらうワークショップを開催した。

街のなりたちや各種インフラ施設の重要性について感じて考えてもらう良い機会となった。



船上から帆船を望む。